



老夫婦の福音

シリーズ～福音の力～

2020/12/06

アドベント第2週



ルカによる福音書1章5～17節

ユダヤの王ヘロデの時代、アビヤ組の祭司にザカリアという人がいた。その妻はアロン家の娘の一人で、名をエリサベトと叫んだ。二人とも神の前に正しい人で、主の掟と定めをすべて守り、非のうちどころがなかった。しかし、エリサベトは不妊の女だったので、彼らには、子供がなく、二人とも既に年をとっていた。

さて、ザカリアは自分の組が当番で、神の御前で祭司の務めをしていたとき、祭司職のしきたりによってくじを引いたところ、主の聖所に入って香をたくことになった。香をたいている間、大勢の民衆が皆外で祈っていた。すると、主の天使が現れ、香壇の右に立った。



ザカリアはそれを見て不安になり、恐怖の念に襲われた。天使は言った。「恐れることはない。ザカリア、あなたの願いは聞き入れられた。あなたの妻エリサベトは男の子を産む。その子をヨハネと名付けなさい。その子はあなたにとって喜びとなり、楽しみとなる。多くの人もその誕生を喜ぶ。彼は主の御前に偉大な人になり、ぶどう酒や強い酒を飲まず、既に母の胎にいるときから聖霊に満たされていて、イスラエルの多くの子らをその神である主のもとに立ち帰らせる。彼はエリヤの霊と力で主に先立って行き、父の心を子に向けさせ、逆らう者に正しい人の分別を持たせて、準備のできた民を主のために用意する。」



老夫婦への朗報！

● 子どものいなかった老祭司夫婦

- 「二人とも神の前に正しい人で、主の掟と定めをすべて守り、非のうちどころがなかった」のに…
- 子どものいないことはエリサベトにとって「恥」だった
- 当時は子どものできない妻を簡単に離婚することができたが、ザカリアはそれをしなかった

● 天使のお告げ

- 「あなたの願いは聞き入れられた」<祈っていた！
- 「あなたの妻エリサベトは男の子を産む。その子をヨハネ（“主は恵み深い”の意）と名付けなさい」
- 「母の胎にいるときから聖霊に満たされていて、イスラエルの多くの子らをその神である主のもとに立ち帰らせる。」



お告げ通りのエリサベトの妊娠

- **ザカリアは天使のお告げを信じなかったので、口がきけなくなった**
 - 「何によって、わたしはそれを知ることができるのでしょうか。わたしは老人ですし、妻も年をとっています。」> **主の力を信じることができなかった**
- **エリサベトはお告げの通り男の子を授かった**
 - 彼女は「五か月の間身を隠していた」
 - ・ **彼女も信じられなかったのだろう**
 - 「主は今こそ、こうして、わたしに目を留め、人々の間から**わたしの恥を取り去ってくださいました。**」



ルカによる福音書1章39～45節

そのころ、マリアは出かけて、急いで山里に向かい、ユダの町に行った。そして、ザカリアの家に入ってエリサベトに挨拶した。マリアの挨拶をエリサベトが聞いたとき、その胎内の子がおどった。エリサベトは聖霊に満たされて、声高らかに言った。「あなたは女の中で祝福された方です。胎内のお子さまも祝福されています。わたしの主のお母さまがわたしのところに来てくださるとは、どういうわけでしょう。あなたの挨拶のお声をわたしが耳にしたとき、胎内の子は喜んでおどりました。主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いでしょう。」



マリアの訪問

- **半年遅れてマリアにもお告げがある**

- 「あなたは身ごもって男の子を産むが、その子をイエスと名付けなさい。」31
- 「あなたの親類のエリサベトも、年をとっているが、男の子を身ごもっている。」36

- エリサベトの妊娠がマリアの励ましになっている

- **マリア、エリサベトを訪ねる**

- マリアは「急いで」エリサベトのいるユダの町に
- マリアの声を聴いた瞬間、エリサベトの胎内の子が喜びおどった！
- マリアは自分の身に起こることを確信する



ルカによる福音書1章57～65節

さて、月が満ちて、エリサベトは男の子を産んだ。近所の人々や親類は、主がエリサベトを大いに慈しまれたと聞いて喜び合った。八日目に、その子に割礼を施すために来た人々は、父の名を取ってザカリアと名付けようとした。ところが、母は、「いいえ、名はヨハネとしなければなりません」と言った。しかし人々は、「あなたの親類には、そういう名の付いた人はだれもいない」と言い、父親に、「この子に何と名を付けたいか」と手振りでも尋ねた。父親は字を書く板を出させて、「この子の名はヨハネ」と書いた。それで、人々は皆驚いた。すると、たちまちザカリアは口が開き、舌がほどけ、神を賛美し始めた。近所の人々は皆恐れを感じた。そして、このことすべてが、ユダヤの山里中で話題になった。



ヨハネの誕生

- エリサベトは無事に男の子出産する
- 知り合いたちはそのことを喜んだ
 - 「主がエリサベトを**大いに慈しまれた**と聞いて喜び合った」
くエリサベトの辛さを知っていた
- **名前をヨハネとつける**
 - 人々は「父の名を取ってザカリアと名付けようとした」
くユダヤの習慣
 - まずエリサベトが「ヨハネとしなければならない」と言った
くザカリアから聞いていた
 - ザカリアは口がきけないので、板に「この子の名はヨハネ」と書いた【“主は恵み深い”の意】



ルカによる福音書1章67～79節

父ザカリアは聖霊に満たされ、こう預言した。
「ほめたたえよ、イスラエルの神である主を。主はその民を訪れて解放し、我らのために救いの角を、僕ダビデの家から起こされた。(中略)

幼子よ、お前はいと高き方の預言者と呼ばれる。主に先立って行き、その道を整え、**主の民に罪の赦しによる救い**を知らせるからである。これは我らの神の憐れみの心による。この憐れみによって、高い所からあけぼのの光が我らを訪れ、暗闇と死の陰に座している者たちを照らし、我らの歩みを平和の道に導く。」



父ゼカリアによる預言

- **主は「救いの角」を「ダビデの家」から起こされる**
 - マリアの胎内の子のことを意識している
- **彼は預言者として救い主の準備をする**
 - 「お前はいと高き方の預言者と呼ばれる。主に先立って行き、その道を整え、主の民に罪の赦しによる救いを知らせる」
- **ヨハネの後に救いの光が訪れる**
 - 「高い所からあけぼのの光が我らを訪れ、暗闇と死の陰に座している者たちを照らし…」



用いられた老夫婦

- **子どもがいない老夫婦に主は目を留められた**
 - 彼らの誠実さと、愛情をご存じだった
 - ザカリアの祈りを聞いておられ、エリサベトの苦しみを感じておられた
- **彼らに特別な役割を与えられた**
 - 救い主の母を励ます役割
 - 人々を励ます役割
- **生まれてくる子にも特別な役割を与えられた**
 - 救い主のために人々の心を整える役割
 - 本物の救いが訪れることを告げ知らせる役割



そのとき、おとめは喜び祝って踊り

若者も老人も共に踊る。

わたしは彼らの嘆きを喜びに変え

彼らを慰め、悲しみに代えて喜び祝わせる。

エレミヤ31:13